

足立区基本計画審議会
第2回全体会 会議録

令和6年1月16日

足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第2回全体会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和6年1月16日（火）		
開 催 時 間	午後1時00分 ～ 午後3時00分		
開 催 場 所	足立区役所 中央館8階 特別会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 会長	石阪 督規 副会長	遠藤 章 委員
	笠井 健 委員	片野 和恵 委員	加藤 和明 委員
	國井 幹雄 委員	山下 友美 委員	渡部 郁子 委員
	秋山 知子 委員	小柳 真太 委員	岡安 たかし 委員
	ぬかが 和子 委員	野沢 てつや 委員	渡辺 ひであき 委員
	大山 日出夫 委員	長谷川 勝美 委員	
	【事務局】		
	政策経営担当部長 勝田 実	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 乾 洋平
	政策経営担当係長 土井 渉	政策経営担当係長 古田 信幸	政策経営担当係長 池田 広幸
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 森田	株式会社 地域計画連合 柳坪
欠 席 者	市村 智 委員	山下 俊樹 委員	
会 議 次 第	1 各分科会での討議内容の報告 2 各分科会での討議内容に関する意見交換 3 次期計画の方向性に関する意見交換 4 事務連絡		

資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料１】 暮らし・まち分科会での意見等 ・ 【資料２】 ひと・行財政分科会での意見等 ・ 【資料３】 今後の討議の進め方に関する資料 ・ 【資料４】 次期計画の方向性・テーマ案に関する資料 ・ 【資料５】 生活満足度に関する資料 ・ 【資料６】 第３回 分科会開催通知
そ の 他	傍聴人：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (人) その他参加者：有 <input checked="" type="radio"/> 無 ()

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

（伊東 基本計画担当課長）

ただいまより足立区基本計画審議会第2回全体会を開催します。本日はお忙しいところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。司会進行を務めます基本計画担当課長の伊東でございます。よろしくお願いいたします。まず本審議会ですが、本審議会は条例で公開を原則としていること、そして会議録はホームページで公開をいたします。なお、会議録を正確に記録するために録音をさせていただいておりますのでご了承ください。

それでは、まず配付資料の確認を行いたいと思います。6点ございます。資料1、くらし・まち分科会での意見一覧。資料2、ひと・行財政分科会での意見一覧。資料3、今後の審議の進め方に関する資料。資料4、次期計画の方向性・テーマに関するイメージ図。資料5、生活満足度に関する資料。資料6、第3回分科会の開催通知。以上です。その他席上に本日の席次表と、意見提出用紙を置かせていただいております。また、令和5年の審議会・分科会の開催に係る報酬の源泉徴収票も席上に置かせていただいております。後ほど内容をご確認いただきまして、ご不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。また、資料についてはタブレットでご覧になれますので、ご要望がありましたら事務局までお申し付けください。

1 各分科会での討議内容の報告

（石阪副会長）

それでは、お手元の次第に沿って進めていきます。次第1、各分科会での討議内容の報告となります。まず、ひと・行財政分科会の討議内容を資料2に沿ってお話いたします。

まず大きく二つに分かれます。基本構想の視点の「ひと」、それから「行財政」です。まず「ひと」の方からお話をさせていただきます。こちらは、一番多い言葉を見ると、支援という言葉が非常に多い。つまり、今まで通りの支援をすることはもちろん大前提なのですが、共通することが一つあります。これは何かという

と、昔に比べて子どもたちであるとか、支援が必要な方、いろいろな方がいらっしゃるの、今まで通りのようなメニューでポンと出して、はい、乗っかってきてください、ではなかなか難しいのではないかと。きめ細やかな支援が求められる。特に議論の中心となったのは子ども、もしくはその子どもたちを支えるご家族。ここへの支援をどうするかというところが、議論の中心になりました。例えば、課題を抱える子どもの支援のところでは、学校がもちろん一つ大きな機関としてある。家、家庭がある。ただ、サードプレイス、つまり第3の居場所がなかなか子どもたちにないのではないかと。これはむしろ皆さん、地域の方々の力によってそういったものを作っていったら、子どもたちが安心して暮らせるような、つまり、家庭や学校とは違ったサードプレイスを作ることも大事ということですね。それから不登校とか引きこもり。こういった子どもたちも増えています。これはいわゆる当事者で抱え込んでしまって、どうしようかと悩むのではなくて、むしろ居場所を作ってあげて、当事者同士が議論できたりとか、話ができたりする環境を整えることが必要になってくる。つまり、いろいろな方々をつないでいくという役割も行政には必要になってくるということになります。例えばですが、ユニークな案としては、民間がやっているフリースクール。このフリースクールが今実際に例えば建物があってそこに通うのではなくて、仮想上・ネット上にそういったフリースクールのようなものを作って、その上で学んでもらうとか。おそらく外に出るのが難しい子どもなどは、そういった形での支援もあり得る。むしろ民間のノウハウとか知恵をうまく活用しながら、行政と連携しながら、こういった子どもたちの支援ができるのではないかと。こういうアイデアもいただきました。

それから、他に様々な支援の一つとしては、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援のところに書いてありますが、中間所得層が出産・子育てをしやすくなることも課題である。足立区と言うと、23区でも突出して貧困家庭とか、所得の低い方への支援は手厚いイメージがありま

すが、委員の中から出てきたのは、もっと幅広く支援のメニューを広げてはどうだろうかという意見でした。お子さんがいらっしゃる家庭というのは、所得の上下はありますが、いろいろな悩みがそれぞれの階層であるだろう。そういったものに対しても向き合って、今足立区としてはどんな課題があるのか。これは区としてだけではなくて、東京都や国と連携しながら進めていく必要があるだろうということでした。

それから、男女共同参画、子育てと仕事の両立支援などについては、例えばワーク・ライフ・バランスやジェンダー平等の達成といった非常に大きな目標はあるのですが、なかなか家庭内や職場での男女格差が埋まっていないという現状がある。こういったところを様々な施策でどう改善していくのか。ワーク・ライフ・バランスについても、例えば待機児童が0となっているが、これは保護者にとっては確かに0でも問題がないわけではなくて、どのような支援が考えられるのか、今回の計画の中で位置付けられれば良いというご意見がありました。

それから、足立区は芸術・文化・スポーツが非常に活発であり、子どもたちのスポーツが非常に強いけれども、施設が不足している。これは東京都や国の施設もあるかもしれませんが、こういったスポーツを楽しむ施設、あるいは技量を高めていくための施設、こういったこともある程度考えていく必要がある。施設ということに関しては、例えば図書館や文化的な施設。今は維持がかなり大変で、統廃合が進んでいますが、これも区民の役に立つような施設であるので、むしろきっちり残して、バランス良く支援していくことが必要になるということです。また、文化については、これは施設と言うよりは、どちらかというと発表の場が少ないというご意見がありました。子どもたち、あるいは区民の皆さんが発表できるようなイベントは結構あるとうかがっているのですが、イベントでもいいのですが、こういったものを拡充していく必要があるだろう。イベントも単発で、この時期にこれ、その時期はこれとあるのですが、むしろ継続的にいろいろなものを紹介できるようなイベントがあってもいいのではないかな。

ような意見もありました。

「ひと」の方については、主に子育て支援を中心に、様々なご意見が出された中で、やはり私が冒頭に言ったように、多様な我々のニーズにどう応えていくのかというところが、一つ大きな課題になっているのだろう。多様性を理解し、それを支援していくためのメニューづくりが求められるということです。

それから、「行財政」に目を向けていただくと、やはり基本構想でもうたっている「協創」についてです。足立区ではこれを掲げて、進めてきたわけですが、思いの外、進んでいないのではないかな。その背景には、やはり行政が一つひとつ支援をしていって、直接支援をしてしまう。そうすると、そこで区民たちの自主的な動きだとか、様々な取組みをされているものが今は点で終わっている。それぞれの拠点でいろいろなことを皆さんやられているのですが、これをつなぐ、コーディネートするところまでなかなか行けていないのではないかな。それぞれの活動を支援するのは必要なのですが、それと同時にそれをつないでいく。点を線や面にしていく。そういう試みが必要だろう。それは例えば市民活動であったりとか、あるいは町会・自治会の活動はもちろんですし、あとは民間とか企業とも上手くつないで、例えば一つの課題を解決するのに、様々な主体が集まって大きなプラットフォームができる。このようなことがやはり理想である。ここに向けて区も積極的に協創を進めていくべきではないかということです。NPO、町会・自治会はしっかり活動をしているのですが、なかなかそれがつながらないというジレンマ。これが皆さんのご意見から伺えました。

それから、情報発信ですが、これは区内在住の方は比較的足立区のイメージがかつてよりも上がってきて、区に対する誇りを持っておられる方も多いということですが、区外に住んでいる方からすると、依然として足立区のイメージは固定化されているという問題がある。やはり情報発信の工夫も必要になってきます。これはアイディアですが、例えば広報大使の活用であったり、アピールの方法もいろいろなチャネル

ルを用いる。例えば、今持っている広報だけではなくて、もっと若者たち、特にSNSなどを使って広報をすることもできるということです。やはり懸念点は、行政から直接広報をするのは難しいのではないかということ。行政の広報はどうしても難しい表現で、文字が多い。例えば民間の広報の専門家が情報発信をした方が、足立区のイメージがフランクに伝わるのではないかという意見もありました。区が全て情報を抱え込んで発信するやり方ではなく、いろいろな方々にお願いをして、情報発信をしてもらうようなそういう仕組みもあり得るのではないか。

それから、自主財源の確保。これは足立区も税金を取ってそれを拠出するということで、ずっと行政を運営しているのですが、もっと足立区の自主財源を増やすような取組みをしてもいいのではないか。例えばネーミングライツを作って、それを収入として入れていく。例えばある施設を作ったら、そこに民間に広告を出してもらう、クラウドファンディング、ふるさと納税。こちらの方も充実させていく。企業のふるさと納税が区でできるか分かりませんが、今は企業もできます。それから、ギャラクシティのような公共施設ですが、例えば区民ではない区外から来た人から入場料を取ることもあり得るのではないかといったお話がありました。何でも無料でもいいのですが、ちょっとお金を稼ぐということ、つまり、経営という視点を区としてもう一度見直してみてもどうかというご意見もありました。

それから、人材については、区の職員として人材を揃えてもらいたいということはもちろんですが、足立区で働いてもらうということ。これも含めて、もっといろいろと評価であったり、行政の縦割りといったものを見直していく必要がある。

その他のところですが、これもいろいろな意見がありました。一つ私ができるほどなと思ったのは、やはり足立区の一つの特徴は、若い人は結構いるということです。そこで例えば結婚も出産もする。これは多いということが数字として分かっているのですが、いざそこに家を建て

て居住するとなると、出ていってしまう。これが足立区の大きな課題です。つまり足立区は、若者たちにとってみると永住先ではなく、係留先です。これは住み続ける上で何らかの課題があるということです。特にファミリー層が出ていくというのは、足立区にとっては非常に大きな損失ですので、ではファミリー層に残ってもらうために何が必要なのか。その一番の大きな課題は、子育て支援や住宅支援であり、若い人たち・ファミリーが定住できるようなそういう取組みをしていく必要があるだろう。

最後に、足立区基本計画の方向性・テーマ案について。これは資料4で、後で事務局からご説明がありますが、まとめていただいた真ん中のところで、「やりたいことができるまち」、「誰もが主役になれるまち」、それから、「自己実現ができるまち」と三つ書いてあります。私は若い人にとどまってもらうためには、ここが非常に大事だと思っています。いろいろな支援を足立区はこれまでもやってきました。しかしながら、例えば若者やファミリー層たちが自主的に何か活動をしたい。こういうことをやりたい。自己実現の手段として考えた場合、足立区ではこれまで物足りなかったのかなど。他の区ではいろいろな自己実現の手段としての様々な施策があったのが、足立区はこれまで行政が何でもかんでも支援したが故に、そういった主体性・自主性が今一つ育ってこなかったのではないか。こういう課題があると思っています。そういった中で、今回のこの計画において、ファミリー層や若者たちが自分たちがやりたいこと、あるいは、主役になっていろいろなことに取り組みたい、こういうことを支援することによって、これまで足立区が、安心・安全支援に偏っていたものが、主体的な活動であったりとか、やりたいことができる、こういったまちにつながっていく。そういったところがいわゆる若者層の定住において大きな意味があると思っています。私の報告は以上です。補足があれば、部会に参加した皆さんから個別にお話をいただければと思います。

それでは私はここで終わります。宮本先生にお返しします。よろしくお願いします。

(宮本会長)

それでは資料1に基づいて、くらし・まち分科会で検討をしたことについてご報告させていただきます。いろいろ多岐にわたってご意見が出たのですが、まずくらしや仕事に困っている人の支援、高齢者が地域に住み続けられる仕組み、生活環境、障がい者への支援、そして地域で支える体制。このあたりがある程度共通性があると思ひまして、そこからご報告させていただきます。

まず、くらしや仕事に困っている人への支援に関しては、足立区は全国的に見ても困窮する家庭の子どもへの支援等は最初からやっていた区ですし、非常にきめ細かくこれまでも実績を積み重ねてきていると思います。それから、高齢者に関しても取組みが進んできたわけですが、昨今足立区だけではなく、全ての自治体において、くらしや仕事に困っている人たちの増加が顕著であります。その方たちが孤立・孤独を共通して抱えているという状況なのですが、複合的な要因を持っていて、従来のような一つひとつの制度を適用することで救済することが、次第に難しくなっているという特徴がある中で、きめ細かに、そして制度の縦割りではなく、横断した形で支援の体制ができてることが重要だというお話がいろいろな形で出てまいりました。

従って、足立区がずっと重点的に取り組んできたものを、より一層発展させながら、例えば貧困の子どもとか、高齢者ということに限定せずに、全ての区民に目を広げながら、どんなことがあっても足立区にいれば大丈夫、というような状況を目指すことが必要だということではないかと思ひます。高齢者が地域に住み続けられるということに関しては、現在高齢者である方たちに対する取組みと同時に、現在中年期、あるいは壮年期の方たち。特に一人暮らしの方たちがかなり多くなっておりますが、その方たちが50を過ぎてくると、高齢期にここで住むことができるかどうかという不安を抱くようになるということがよく言われています。ここにいれば足立区が守ってくれるだろうというような、そういう住み続けられる仕組みが必要だろ

うということです。

それから、生活環境に関して出てきたのは、ごみ屋敷等の問題です。これに関しても足立区は非常によく取り組んできたところですが、やはり区がお金を出すことになると、その基準というのがどうしても厳しくなりやすく、融通が利かないという問題があるという指摘がございました。そこで、どうにも手が付けられない状態になってから処理をするのではなくて、もっとその前段階で、行政ではなく、もう少し市民のできることをやっていけるような、そういう体制づくりができないだろうかという意見がありました。

それから、例えば、ごみ屋敷問題に対しては、精神的な病を抱えている方もかなり多いと言われているのですが、精神科医にアドバイスに入っていたことによつて、上手くいっているという例も出てきているということで、ごみ屋敷問題をもう少し総合的に捉えて、体制づくりをする必要があるのではないかとしたことでもございました。この区民の参加に関しては、いくつかの例が他のところでございますが、本当に地域のいわばボランティアが、家で溜まった新聞を束にしたものを置き場まで出すお手伝いをするとか、ちょっとした台所の清掃をするとか、市民組織を作つてやっているということも出てきていますので、もう少しごみ屋敷問題を広げていくことが可能ではないかということでもございました。

地域で支え合う体制については、全体としては行政と区民と、それからいろいろな企業や専門家たちが支え合うことによつて、孤立・孤独を防止し、経済的困窮を防止しながら、足立区なら大丈夫という区をイメージすることができるのではないかということかと思ひます。

消費者被害の問題、特殊詐欺対策についてもご意見がございましたが、特殊詐欺問題はどんなに対策を講じて、なかなか抜本的に解決できない非常に頭の痛い問題であるということでもございましたが、例えば銀行等について、ちょっと怪しいというか、高齢者が何となくキャッシュディスプレイの前での振る舞いが心配だなという時に、誰もが声を掛けられるようにす

るためには、ある程度の訓練が必要ではないか、つまり声掛けの実践です。そういったことを区民がやる機会があれば、気楽に声を掛けやすくなるのではないかとかです。これは障がい者に対して声を掛けるということも、声を掛けたいという気持ちはあるのだけれども、なかなか最初の勇気がないということが言われております。そういう意味での実践的な経験でしょうか。そういうようなものがあるといいのではないかという意見もございました。

それから、「まち」に関してですが、交通環境や道路環境に関しては、交通手段のない地域というものが出てきている。買い物も通院もできないような高齢者が生じているという問題があって、これは何とか解決が必要だということで、区でもいろいろと検討されているという説明がありましたが、これは引き続き、しかも早急に検討する必要があるということでした。

それから、震災・水害対策に関してです。これは喫緊の課題ですが、「その他」の欄にも、町会・自治会のことがいくつも書いてあります。なかなか町会・自治会が従来のような形の力が持たなくなっているという実態がございましたが、震災・水害対策ということからすると、やはり町会・自治会というのは非常に重要なもので、そういう意味で言うと、町会・自治会が何を一番担わなければならないのかという時に、少し考え方を切り替えて、自然災害に対して、町会・自治会がきちんと体制を作るような、そういうことが考えられるのではないかとすることがございました。

「その他」のところには、横断的ないろいろなご意見がたくさん出ておりますが、一つ目の若い人が足立区に住んで、まちというものに参加して関わっていくためには、やはり若い人の多様な自主活動の育成が必要だろう。何かやってくださいよ、ではなかなか動くことができない。例えば、活動の場を提供するとか、情報を提供するとか、それからネットワークを作るに際して、行政で持っている何らかの力をそこに提供するとか。そういったことがあると、若い人たちの活動が広がっていくのではないかと。この若い方たちの活動が豊かになっていくとし

ても、若い人たちの区内外の入れ替えはかなり激しい。それを前提する。つまり、足立区に住みながら、何年かは非常に活発に活動をした。その中の一定の方が残るし、そうでない方は移動する。そうやって交替していくこと自体も前提にしてもいいのではないかとということも考えられるように思います。

それから、足立区の特徴は何だろうかということで、いろいろとご意見が出たのですが、全体としては他の23区のように、足立区にはこれがあると分かりやすく誇れるものがちょっとないというご意見は多々ございました。そこで出たものは、一つは足立区に住んでいると、その良さが分からない面があって、区外の方に指摘されて気付くことがあるということ。例えば足立区の農業公園。東京23区で農業公園を持っている区はそんなにありません。土地がないと言われていますが、区民の土いじりをしたいという要望はどんどん広がっていると言われるのですが、そういう点で土地がまだかなり潤沢にある足立区にできることがある。そういう例に見られるような特徴というものが活かせるのではないかと。それから、行政が何かないかと言って開発することはあるとしても、もっと区民が自主的に寄り集まって、足立区はどうすると暮らしよい区になるのかということを自主的・主体的に検討できる場というものと、それから場だけではなくて、活動ですよ。そういうものがあると違ってくるし、足立区の特徴は中央の区とは違って、もっと区民参加型の手づくりの良さを持った区だといった特徴が出てくるのではないかとということでもございました。

更に一番下にありますが、足立区は23区で高齢化率が一番高いということですので、中年期、それから子ども期の割合が少なくなっています。中年期のシングル層が他の中心区よりは少ないとはいえ、明らかに中年期のシングルが増えている中で、多くが賃貸住宅に住みながら、定住志向はシングルの方が高いということが言われているわけで、その方たちが安心して足立区に住み続けられるための政策。特に住宅政策に関しては、やはり重要なポイントではないかということでもございました。

2 各分科会での討議内容に関する意見交換 (宮本会長)

それでは、早速、意見交換に入りたいと思います。今2つの部会のご報告をさせていただきましたので、これからご意見をいただきたいと思っています。今日は2つの意見交換のセッションがありますので、発言は短めにして、たくさんの方にご発言をいただければと思います。

(石阪副会長)

私から提案なのですが、今、私の話からも、宮本会長の話からも、「若者」というのがたくさん出てきました。これは皆さんの合意が必要かもしれませんが、例えばこの審議会でも、もっと若い方のご意見を伺ってみたい気がします。途中からになります、若い方々の意見をj知するために、例えばこういった審議会のメンバーの中に、若者をお一人加えて議論を今後していくというのはいかがでしょうか。

(大山委員)

事務局に確認なのですが、若年層の方を仮にお一人追加いただくとして、その他の方からのご意見がいただきたいという時に、そういったことが可能なのでしょうか。

(加藤委員)

若者と言っても年代的にどのぐらいなのか。単身者なのか。あるいは世帯を持った方なのか。

(石阪副会長)

私がイメージしているのは大学生とか、そのぐらいのレベルです。20代の方とかのご意見をうかがってみたいです。つまり、足立区で自主的ないろいろな活動をしたりとか、大学連携にもつながるような、そういった方の意見を伺ってみたいのですがいかがでしょうか。

(加藤委員)

足立区は大学が多いのですから、学生などは比較的参加していただけたと思います。あとは20代、30代ぐらいで世帯を持っている方々とか。これは手を挙げていただくことは難しいかもしれません。

(伊東 基本計画担当課長)

審議会の委員に新しく入っていただくことは

可能です。この審議会の定員は20人ですが、現在19人です。つまり、もう1枠ありますので、例えば20代の方にもう一人入っていただくことは可能です。ただ若者と言っても、今議論の中にあったようにいろいろな方がいらっしゃいます。1人委員に入っていただくうえで、例えば子育て世代の代表の方とか、ある時は大学生の代表の方とかに、オブザーバーのような形で都度入っていただくことも規程上は可能です。

(宮本会長)

どうでしょうか。同じ方に出ていただくか、毎回年齢層を変えて来ていただくか。両方あり得ます。

(石阪副会長)

例えば、委員になる場合は委嘱しなければいけないので、固定の方でないと思jますが、陪席とかオブザーバーですよね。

(伊東 基本計画担当課長)

おっしゃるとおり、委員として新しく入るとなると公募になりますので、その方は固定になります。プラス陪席として都度その議論にふさわしい方をお招きしてご意見をいただくことは可能です。

(野沢委員)

私はやはり思い切って意見を変えろという面では、やはり大学生の方。もしかしたら高校生でもいいのかもしれませんが、それぐらい若い方が必要だと思います。子育て世代には秋山さんもいらっしゃいますし、私も娘が2歳で、子育て真っ最中で、今日も保育園に送ってから来ており、多少はそういった発言はできると思います。やはりメンバーの構成から考えると、大学生とか高校生とか、思い切った若手の方がいいと思います。

(宮本会長)

今のご意見は、例えば大学生として、それは正規の委員として、ということでしょうか。

(野沢委員)

そうです。できれば継続して正規の委員として1人、大学生の方の参加を希望します。

(ぬかが委員)

私、委嘱なのか、場面場面で来ていただくの

かというのは、会長・副会長と事務局の判断で、どちらでもいいと思っています。

宮本会長が提唱しているユースカウンスルの若者の政治参加・社会参加・行政参加の取組みが全国に広がっています。そういう中で若者のまちサミットというのをやっています。先日、私もそれに参加をし、ちょうど本日午前中もそれに関して議論したので、後ほど意見を言おうと思っていました。先ほどの報告でもあったように、定住とかいろいろなことを考えた時にも、若い人たちがそれこそやりたいことがやれる成功体験もそうだけれども、成功体験を積み重ねて、足立区っていいところだね、もっとつながっていききたいね、って思える人を増やしていくというのが大事だなと思っています。そういう取組みを知っている方々にもオブザーバーでも参加をしていただけるといいかなと思いました。

若者のまちづくりサミットの中心メンバーが足立区の選挙管理委員になっているなど、いろいろなことで若い人たちを一生懸命呼び込んだり、みんなで頑張ろうよという流れの中で、足立区に関わってくださっている人もいます。そういう人をオブザーバーとして参加というのでもいいかもしれません。今お話ししたことも考慮して相談していただけるといいなと思います。

(宮本会長)

去年の4月にこども家庭庁がスタートして、こども基本法ができて、明確に子ども・若者の意見の聴取と、そして参画がうたわれるようになりました。こども家庭庁は審議会の中に大学生が2人も正規の委員として入っています。また、部会の部会長が1人、25歳ぐらいの人になったり、様変わりしている状態ですので、そういう意味ではこちらも考えたらいいと思います。これだけ議論していると、せっかくの貴重な時間がなくなりますので、大体今お話を伺ったことを元にして、事務局と会長・副会長で相談して適切な方に参加していただくことにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

(宮本会長)

ありがとうございました。

(秋山委員)

今日、私がお配りした持ち込み資料をご覧ください。今年の1月8日に商工会議所が人口ビジョン2100を岸田総理に提出したお話がニュースで流れたので、自分も資料を見たところ、少々衝撃を受けたところです。グレーの枠と黄色の枠は私が付けたのですが、この上の枠が今までの100年で、黄色い枠がこれからの100年です。どんなに出生率が上がっても、下がっていくのは変わらない。これから先は未来のことを考えるにあたっては、どんどんサービスを追加していくということばかりではなくて、既存のものを閉じるとか、整理してやめるということもセットにして考えなければいけないと思っています。やはり人は前向きなことを考えようとすると、どんどん追加する傾向がある。このような前向きな会議ではなかなかやめるということを話すづらいのですが、これから先の時代は、どんどん閉じて整理したり、自前で持っているものを共有していったりという時代が変わっていくということを私たちも念頭に置いて、将来のことを話していった方がよいと考えています。

自治会などは今加入率が下がってきて、これからどうしようという話が出ていますが、だから若い人にまた入ってもらって、従前の組織を維持していくというのではなくて、では違う組織というか、違うつながりを作っていこうということを考えていったりしなければいけないのではないかと思います。今やっていることでやめることとかも積極的にここで議論し、今後、区が例えば施設を閉めるなりする時にも、この基本政策が決まっているから閉められるねというふうにしてあげられたらなと思っています。

(宮本会長)

「閉める」ということで、具体的に構想していることはありますか。

(秋山委員)

私は田舎の出身なので、例えば文化ホールなどは県に1個しかなかったりします。足立区ですと、至近距離に〇〇ホールと名前が付くものが結構たくさんあるなど、すごく豊かなところ

だと思いますが、維持費はどうなのかなとか、そういうふうになってしまう。やはり人が減るということは、お金も減っていくことなので、今後はそういったものは施設の維持費を減らしていったり、兼ねていったりしなければいけない時代に、発想をゴロツと変えないといけないと私は思っています。

(宮本会長)

ありがとうございました。

(岡安委員)

今ご意見があった公共施設の再配置というのは、本当に大事な話です。これはやはり50年、100年という単位で見て、しっかりと先進市・県の事例を取り込んでいく必要があると思います。一時期、例えばプールや図書館なども、広域で見てもいいのではないかという議論もあったのですが、なかなか難しいところもあります。やはり公共施設というのは一番お金が掛かる場所ですので、これはしっかりやっていく必要があると思っています。

その上で先ほどお話があった、孤立・孤独、くらしや仕事に困っている人への支援。ここは本当に今足立区において、特に若い人のそういう状況が増えています。小中学生も不登校が増え、また引きこもりも増えています。引きこもりに関しては、少なくとも外に出ていける人が、ウェルビーイングとか主役というところについては、今はなかなか難しいのかなと思います。というのは、お一人様のカラオケとか、焼き肉なんていうのが流行っていますが、足立区のいろいろな行事とか、住区センターとか、1人で行くというのがなかなか勇氣的に難しいかもしれません。住区センターなど1人ではなかなか行けないよなという状況だと思います。また、イベントも1人で行くのにふさわしいイベントというか、気軽に行けるイベントが少ない。人の目もあるのでしょうけれども。この孤立・孤独対策を、特に男性なのですが、本当に真剣にいろいろ考えて、何がいいかというのは、今は具体的には言えないのですが、基本計画の中にここは少し柱立てしてやっていかないと、誰もが主役というのはなかなか難しいかなと思います。ここは非常に大事ななと感じまし

た。

(宮本会長)

ありがとうございます。今の岡安委員のご発言に関連して何かございますか。

(渡部委員)

今のお話、まさにと思っています。若者目線で考えると、安心と活力の場合に、活力にどうしても目が行きがちで、若い人にどう活躍してもらうかという方に目が行きがちです。逆に言うと、23区一番の高齢化ということは、既に高齢者には住みよいまちを達成しているとも言えると思います。高齢者の安心はある程度確保できている。長く住み続けたいと思っている方が多いという一方で、若者がそう思えなくて出ていくということは、若者の安心って何だろうって考えてみると、今、岡安委員がおっしゃったように、若者の就業の安心とか、生活の安心とか、そういったところに目を向けて、何かの施策を作るということもとても大きな意味があるかもしれないなと、今聞きながら思いました。

(笠井委員)

ものをなくしていくという部分は確かにそうだと思います。そして、それだけではなく、やっぱりその工夫をして、続けられるものはあると思います。それを同時に進めてみてはどうかと思いました。今はやめていくばかりが目立つ世の中なので、工夫をして続けられるかという議論も忘れてはいけないなと思いました。

あとは一人暮らし、引きこもり。これは中学生にもいますが、そういった場所を提供することも学校関係では結構尽力して、学校なり教育委員会なりにお手伝いをさせていただいて、今年予算が付いて、ちょっとずつ広げられているという現状が今はあります。先ほど副会長が言われましたが、引きこもりの方に対してのアプローチとして、ネットというものがこれだけ広がってきて、いろいろな形でPTA活動や町会・自治会などにIT化の波が来ています。それはやはり活用すべきではないかと思います。それをいかに足立区、行政がどうフォローできるのかという部分を、もっともっと考えていく段階に来たのではないかと思います。

(宮本会長)

ありがとうございます。この増やす部分も考えるべきということで、このことについても、具体的に何かあれば一つぐらい上げていただけますか。

(笠井委員)

増やすということではなくて、今良いものをいかに継続して広げられるかという考え方で。現にやっているわけですから、やめるかもしれないっていう間の部分を切るのではなく、そこを模索して良いものは残していくということも大事ですねという話です。

(小柳委員)

皆さんの意見を聞いていると、結構子育て世代とか若者とかを定住させようとか、留めようという政策に結構力を突っ込んでいこうという雰囲気を感じます。私も子育て世代の一員なのですが、私の感じていることとすると、結構最近かなり子育て支援というのは手厚くなり過ぎと言ってもいいぐらいになってきている状態で、逆に肩身が狭いというのがあります。つまり、少ない子育て世代に重点的にいろいろな資源が投入されることによって、その他の人たちが結局放っておかれているとか、子育て世代に搾取されているとか、そういうような関係が生じてしまうことをちょっと心配しています。そうすると逆に、心理的に暮らしにくいということが発生し始めてしまうので、そのバランスを上手く取ってほしいなと思います。

(笠井委員)

P T A活動でも同じようなことが起きています。要は会には参加していない親御さんが、子どもさんはどうするのかという話がよくあります。会費を払っていないから、卒業式の花を出せないとか、そういう考えも結構あります。お金を出してないから肩身が狭い。だからその時だけ払うといわれる。そういう考えではいけないなと僕は思っています。全体的には会に入会しているのは親であって、子どもとは全く関係ない。これは会員ではなくても、分け隔てなくP T Aがそこにお祝いとして出したという感覚でいてほしいと思っています。それは行政にも関わってきまして、みんなで集めた税金の使

い方なわけですから、これは根本的な考え方がずれているから、何か威圧的に考えたり、子どもがいけない家庭がいけないんだみたいなふうに考えること自体が間違っている気がします。

(小柳委員)

その考え方が間違っているかどうかは別として、そう思う人たちが多くなってくると、相対的にこちらの肩身が狭くなるということです。私自身の考え方とか受け取り方は、私がコントロールできますが、その他の人たちの考え方というのはコントロールができないのでというのが趣旨です。

(笠井委員)

そうですね。受けている側がそう思うというのは、確かに大事なこともかもしれませんが、でも基本的には助け合いをしているのだというところが、皆さん忘れがちなような気がします。助け合うということが根本にあって、それでいろいろな行政のことがなされていると僕は思っています。それを家庭でもそうですし、学校でもそうですし、会社でもそうです。そういった部分の教育というか、言葉というのが足りていないのではないかと最近肌で感じます。あまりそれを考えるような思想とか感覚というのが広がってほしくないなと常日頃思っています。

(片野委員)

今のお話を聞いていて、私たちの団体は女性もシングルの方たちがいらして、やっぱり子育て世代ばかりだよな、私たちは税金を払うだけ払って、リターンはないんだ、みたいな話をされる方もいらっしゃる。私はその時に、やはりこの後国を支えていく人たちを育ててもらっているという考え方をやはり持たなければいけないと思っています。決して肩身が狭い思いなどすることはなくて、堂々と。子どもは国の宝だという言葉があるわけですし、その一方でやはり公を充実させることが全ての人にリターンがあるという考え方もあります。

先ほど公共施設の話が出ましたが、足立区のホールの抽選会の取れなさはすごいです。決して足りていません。土日は本当に取れない。本当はもっと作ってほしい。発表の場、活動の場ということでは場があるわけですので、やはり

そういった意味では、例えばもちろんマクロの目で見えていけば、重なっているところがあるかもしれませんが。そういったものはやはり統合していったり、もっとより良い施設を作って他はなくしていくということがあるかもしれませんが。やはり大きなホール、足立区にはフルオーケストラが入るホールがございません。ですので、そういったことからやはり皆さんが活動するのに場が必要なので、場の充実と活動をするためのお金が掛かりますので、そのお金をどうしていくのかということと一緒に議論されていくべきではないかと私は思います。

(渡辺委員)

今の公共施設の話ですが、20年ぐらい前に足立区では学校を1校作り直すのに20億円、25億円でした。ところが、今は50億円から60億円掛かるようになってしまいました。わずか10年ぐらい前に、足立区の360の公共施設を全部建て替える、または改築する、長寿命化を図るのに2,400億円ぐらいのお金が掛かるだろうと言われていましたが、今は4倍で9,600億円ぐらい掛かるようになりました。そうすると、片野委員からご発言があったように、公共施設をどう考えていくかというのはとても重要であり、足立区では公共施設のマネジメント計画を作って、今一生懸命やっています。ただ、象徴的な出来事が今回ありまして、綾瀬小学校と東綾瀬中学校を建て替えるのにプレハブを作りました。これで二つの学校は完了しますが、もう一つ東淵江小学校の建て替え。これは自校内でやる予定でしたが、それができなくなった時の可能性も考えなければいけなくなって、そのプレハブを使うか、それとも自校内でやるかという議論が今議会で行われて、綾瀬の地域でも大きな問題となっています。

このことはすごく象徴的で、ではそのプレハブはその後どこで使う予定だったかということ、綾瀬のエリアデザイン、再開発のために使っていこうという話だった。もし東淵江小学校の自校内での改築ができなくなった場合、そのプレハブを使うとなると、綾瀬の再開発が遅れます。そうすると、綾瀬にお住まいの方々のこれ

までの期待や、その開発が遅れることによって生じる経済波及効果の減少。こういうことがあると思っているので、その象徴的な出来事を捉まえて、私たちは公共施設のあり方を考えていく必要があります。

また、例えば千住も50年ぐらい経っている学校がたくさんあります。それらを改築する時に、その改築をどういうふうにするのかも大きな課題です。更に先ほど片野委員がおっしゃった「発表の場」を考えた時には場所も必要。次に千住地区では、常東小学校の改築をしなければいけない。駅から至近のところですよ。そうすると、単にその施設を改築する際に、小学校という機能だけで捉えるのか、それとも区全体、駅に近い非常に重要な拠点の公共施設と捉えて、もしかしたら高層化までして、学校だけではなく機能を捉える。そういうことをしながら、長く使える公共施設のあり方。スマートシティの考え方もありますが、そういうことを足立区の中に総合的に捉えて、区民の皆様のニーズと合わせて行っていくことが重要だと思っています。

(宮本会長)

いろいろまだご意見がこれからあると思いますが、ここで一区切りをして、もう一つの議題がありますので、そちらに移りながら、ご意見があればその時にまとめてお出しいただければと思います。今回出された意見は事務局で記録されていますので、各分科会に引き継いで、次回ご検討をいただきたいと思っています。

3 次期計画の方向性に関する意見交換

(宮本会長)

では、事務局から資料の3と4について説明をお願いいたします。

(伊東 基本計画担当課長)

まず資料3をご覧ください。今後の討議の進め方、流れの説明です。本日が資料の左に下にある第2回全体会となります。その後、新しい基本計画の方向性のテーマ、新しいものについてご意見を賜りたいと思っております。この後、2月と3月に分科会がそれぞれございます。その分科会では、各施策のところでも様々な

ご意見がございました。これについて更に深掘り、ブラッシュアップをするような議論の進め方をしていきたい。そして、第3回の全体会ですが、こちらは各施策に関わる大きな方向性のところについて再度ご議論いただく。そして第4回では答申をいただく形になりますので、その答申案のご検討をいただく形で進めていければと思っています。全体会は大きな流れになりますが、分科会の中では各施策についての細かい検討。その議論の積み上げで今後進めていければと考えているところです。

そして資料4をご覧ください。こちらはこれまでの足立区の取組みに加え、次期基本計画で掲げるテーマとして、案を作らせていただいております。第1回目の全体会の際に、次期の基本計画についても、安心と活力を高めていくというところは変わらない。区の普遍的なテーマであるので、ここは中心に据えていく話になるとお話をさせていただきました。そして安心という分野については、今日のご議論にもあったように、一定程度のメニューが整っている中で、それを磨いていくですとか、よりブラッシュアップをしていく。もちろん単身の高齢者のケアというところは新たに組み込まなければならないのですが、基本的にはこれまでの安心を高めていくメニューとして挙げてきたものを、更に磨いていくということだと思っています。一方で、活力については、まだまだ至らない部分もあるのではないかとというのが、これまでのご議論であったかと思います。もちろん活力というものの中には、エリアデザイン・まちづくりの話ですとか、経済活性化をしていって、それによって区内の活力を高めていくという視点もございます。それはもちろん現行計画にも入っていますし、引き続き区としても取り組まなければならないテーマなのですが、先ほどのご議論にもありました活力。特に若い世代、子育て世帯の活力を高めていくにはどうしたらいいのかというところが、今この計画の中では特段強くうたわれている部分がありませんので、ここは新しく加えていきたいと思っています。

資料の左上。足立区の現状と将来と書かれているところですが、先ほど副会長からお話があ

りましたが、高齢化が進む一方で、足立区は若い方々が入ってきているのですが、すぐに出ていくということで係留地になっているという現状がございます。この方々がいかに定住をしていただくか。その中で足立区をステージとして活躍していただくためにどうしたらいいのかというのが、右側の図になります。一つキーワードとして、ウェルビーイングを高めていくということを掲げさせていただきました。ウェルビーイングとは、生活満足度の高い状態。ある特定の分野だけではなくて、肉体的・精神的・社会的にも満たされた状態。ここを高めていくことが必要なのではないかということでございます。これはこれまでの分科会の中でのご意見を通じて出てきたものをまとめたものでございます。

ウェルビーイングを高めていくためにはということで、人々のポジティブな感情を高めていくとか、人々の関係性を作っていくとか、達成感を高めていく。いわゆる自己決定をしながら、自分の行っていきたいことを高めていく。進んでいく。自己決定をしていくというところが非常に大事なポイントで、そのあたりが住んでいただく方の生活の楽しさ・満足感につながっていくという考え方でございます。

合わせて、本日お配りした資料5をご覧ください。これは国が、生活満足度、生活の質について調査した結果です。こういったものが国民の生活満足度を高めていくかが現れた調査です。生活満足度を高める要因はたくさんあるのですが、一番生活満足度が高まるものは、その方の生活が楽しい・面白いと感じるところが一番寄与度が高いといった結果が出ています。私どもとしては、生活の楽しさ・面白さというところを何とか高めていければと考えているところです。

そのために先程来ご議論もありましたが、やりたいことがつながるまちというところを目指していきたいと思っています。やりたいことを自己決定し、実現をしていく過程というところで、達成感ですとか、その中で人々とのつながりも持ちながら達成していくというところが、いわゆる生活の満足度を高めることにつながっ

ていくと考えられますので、そのあたりを各施策の中で支援をしていくということが、今後非常に重要なポイントではないかと思っています。周囲を巻き込みつながりを目指していく。やりたいことでつながることで、関係する人や活動する範囲が具体化していくというところが、ひいては区全体の大きな活力につながっていくと考えられます。今現在、コミュニティを持っていない単身の方々も、こういった活動が区の中でいろいろ広がっていけば、そこに参加をしていく。つながりを持っていく機会自体が増えていくことになりますので、ご自身のやっていきたいことにチャレンジしていくという機会が増えていくのではないかと考えております。そのような循環を生み出すことで、足立区が様々な方々の活躍のフィールドになっていくことにつなげていきたいと思っています。一定程度若い方々を中心に、地価の安い郊外に出ていくことは避けられないことかと思いますが、足立区に滞在している間に様々なつながりを持ちながら活動をしていただくことで、足立区を出ていった後も活動のフィールドとしては足立区を選択する一方、引き続き足立区に残っていただく方は、足立区の中で盛り上げていく活動を続けていただく。そういった機会や場を行政としては整えていくことが必要なのではないかと思っています。このあたり、次期の基本計画の中にはきちんと明記をしていきたいと思っています。

繰り返しになりますが、当然このことだけで区の活力が高まっていくわけではなくて、まちづくり、ハードの部分を含めてのところも併せてしっかりとやっていく。ソフトの部分の考え方も加えていきたいと考えているところです。ご議論のほどよろしくお願いします

(宮本会長)

資料のご説明ありがとうございます。それでは、今ご説明をいただいた資料を基にして、次期計画の方向性などについての意見交換を行いたいと思います。意見は事務局で付箋に記載して模造紙に張り付けていただくこととなりますので、できるだけ多くの方にご発言をいただきたいと思っています。その場合、できるだけ短い

時間で簡潔に表現していただけるとありがたいです。時間は40分ほど取っていますので、その中でよろしくお願いします。

(山下 (友) 委員)

資料5を見ると、ウェルビーイングを高めるということで、その要因について示したデータがあるのですが、この年齢別結果はどうなっているのでしょうか。

(山崎 基本計画担当係長)

こちらは内閣府の調査データを使用しています、基本的には特定の年代を抜いたものではなく、10代から70代以上までの方全てが入っている状況です。

(山下 友美委員)

このデータを足立区でとることは可能なのでしょうか。例えば、足立区の若者が入ってくる率は高いけれども、出ていく率も高いという理由が分かるものなのでしょうか。

(伊東 基本計画担当課長)

2年前に足立区の転出入に関するアンケートというのをやっていて、転入してきた方に加えて、転出した方もその後追い掛けてアンケートをとらせていただきました。転出された方の理由としては、「住宅事情」が一番大きいです。どうしても子どもが増えてきて、足立区の中では手狭になってしまったので、郊外に出て広い家を買うというのが理由として大きいところがありました。区としてはこの部分については避けることができない、行政として手出しができない部分であると正直思っています。それ以外でも足立区でなかなか自己実現が難しいという話も一方で出てきていましたので、生活が楽しくなっていくというところを盛り上げていくという視点が非常に重要だと思っていて、今回この案を作らせていただいています。

(山崎 基本計画担当係長)

先ほどの内閣府の調査の年代別のところですが、こちらの数字自体は10代から70代以上全て入ったものではあるのですが、各年代で区切って同じように集計を掛けたところでも、基本的には同じ傾向が出ています。

(宮本会長)

満足度に関しては、年齢に関係ないという結

果ですね。

(野沢委員)

実は、先の土曜日に300世帯ぐらいあるマンションの餅つき大会がありまして、そこでこの話に関連したことを聞きました。足立区は転入する人も多いけれども、転出する人も多いが、なぜだろうと。そこでの話としては、足立区で生まれ育った方は比較的ずっと定住していく。一方で転入してきた方は、転出してしまふ。結論から言うと、ふるさととか、思い出とか、そういったものが強く印象にある方に関しては、やはり定住する傾向がある。一方でそういったものがないドライな方。職場に近いから足立区に住んでいるとか、子育て施策がいいから足立区に住んでいるとか、そういった方に関しては転出する傾向があるのではないかと思います。従って、この生活の楽しさ・面白さに関連するのですが、思い出とかふるさと意識とか、そういったことを作れるようなまちにすると良いのかなと考えます。

(秋山委員)

私は今までの話からもずっと思うのが、世代間の交流の少なさについてです。例えば、子育て世代は子育て世代で固まってしまっていて、どうしてもエコーチェンバーという自分たちの考えが強くなってしまふという傾向がどうしても多いのかなと思います。昔ながらの自治会のいいところは、人と人が顔と顔を見合わせて、いろいろな世代の人同士で話し合えることですよね。デジタルは自分が話しやすい人とだけ集まったりする。その一方で、同じ考えを持っている人とかは、どんどん遠くでも情報が行ったりする。だからいいとこ取りをしていかなければいけないと思っています。

北千住の街は秋葉原と同じぐらい人の流れがある街ですけども、コロナということもあるのですが、ちょっとイベントとかが少なくて寂しいなと思っています。千住は飲み屋街の街であり、その飲み屋のいいところとはいろいろな世代の人が集まって話したりすることだと思っています。単身者の方がどこで社会とつながりを持っているかという、会社以外では飲み屋さんとかしかないと思います。だから案の中の

ウェルビーイングを高めて、やりたいことがつながるまちとは、ここに子育て世代じゃない人がどうつながっていくのかという、飲食店だったりイベントなんかに参加して、自分の知らない人とつながることじゃないかと思うのです。アナログなイベントをもっと、多世代の人がつながりやすいようなイベントをいっぱいやっていった方がいいかな。自分もいろいろな世代と知り合いになりたいので思っています。

(岡安委員)

事務局からの提案を聞いて、非常に面白い視点だなと思いました。こういうのが今度の基本計画に盛り込むというのは、なかなか他の区市でも見ない良い考えだなとも思うのですが、一方で大変難しいテーマだなとも思いました。基本計画にこういう文章を入れるのはやりやすいし、基本計画っぽいのですが、基本構想ではないので、もう少し具体的なものを盛り込まなければいけないのではないかと感じています。具体性を上げるためにどうするのかという点については、もうひと知恵必要かなと。例えば、スポーツや教育・文化・芸術的なものに落としていって、満足度を上げるにはどういうことが必要なのか。そこにイベントも入ってきたりというふうにするのか。

例えばですが、やりたいことの実現。ポータルサイトと言って、そういう専用のホームページを作ったり、やりたいことの検討プラットフォームというようなものを、NPOや各種団体、区民の代表が常に集えるような、そういう新たな場所を既にあるところを活かすのか、この本庁舎の2階とか、新たな箱を利用するのか。何かそういったものまでも考えて入れ込まないと、基本計画としては概念的な話だけで終わるのではないかと思いました。もう少し皆さんのご意見を聞きながら、具体性があるところも掘り下げていって、基本計画に入れる必要があると感じました。

(片野委員)

実は横浜市からの転入組です。足立区にはかなり長く住んでいまして、気が付けば40年ぐらい住んでいます。なぜ住み続けているかというと、やりたいことが実現できたからです。そ

ここに尽きるのです。なぜ足立区にいるのかというと、やりたいことがたくさんある街だからと答えています。この「活躍のフィールドになる」というのは、本当に実感しております。私の時はそういう起業支援とか知らなかったの、自分でやりましたけれども、人の力を借りればできる方は必ずいらっしやると思います。そういう方たちを育てていくというのが、一つ具体的なものとして計画の中に盛り込まれれば、具体的に見て、ああ、ここに行けばこういうことを支援してもらえるんだ、っていうことができるようなネットワークがあれば、その人たちも残っていくのではないかと。足立区で勉強した学生は多いですから、その先、ここで起業してみようという方ができれば、ある程度定住していただけるのではないかと思います。

(秋山委員)

片野委員がおっしゃったような起業支援をやっている足立区の素晴らしい取組み「あやセンターぐるぐる」というのが秋から始まりました。あのような取組みをもっと進めるべきではないでしょうか。1月1日の広報に載っていたので持ってきたのですが、これが綾瀬だけではなくて、全部の区民に伝わり、ちょっとやりたいと思ったことを応援してもらえるのが足立区なんだというのがもっと広まるといいなと思います。千住はやっぱりこのような元気はないなというのを住んでいて感じます。もうちょっと頑張りたいと思います。あとはインスタグラマーで、足立区の飲食店だけを紹介して、1万人のフォロワーがいたり、公ではなく、民の方でもかなり足立区に貢献している人がいっぱいいます。そういう方をアンバサダーとして公認し、後押しをするというのも大きな力になるのではないかと思います。

あと足立区浴場組合でイベントをやっているのですが、浴場組合自体、一介の営利団体であるため、なかなか区の方で公式に宣伝していただくことがお願いできない。敷居を下げて協力をするとか、そういう姿勢もいただけるとうれしいなと思っています。

(遠藤委員)

商工会議所では目標・課題というのを、必ず

長期・中期・短期で明文化して出します。毎年その短期の目標というのは、年の目標として必ず出します。その時に、どういうものをベースにしているかということ、経済的な問題や経営の問題、コアCPIと言いますが、基本的な経済の数値というのをを出して、足立区なら足立区の数値というのを徹底的に調べて、それに基づいてこういう計画を出しています。その時にこの年度でどれぐらいできたのか。どれぐらいできないのかというのを年度が終わった後、ちょうど3月になるとやります。その時にまずやることは、ROIといって費用対効果というのを必ずやります。その時に出した費用でどれぐらいの効果が得られたのかをやるのです。そういう時に必ず出てくるのが、先ほど秋山委員が提出されたこの人口動態。この人口動態に基づいたものがベースにいつもなっています。この人口動態によっていろいろな政策や施策が違ってきます。簡単に分かりやすく言うと、街とか都市をつくるのですが、その時に人口がどれぐらいの見通しで、どのぐらいの経済効果が生み出せるのかということを経営的に必ずやります。その時に、どういうものになっていたらいいのかということ、DXを進めましょうとか、SDGsを進めましょうとか、必ずそういうものが計画の中に入ってきます。

合理化をどんどん進めていくのですが、どういう方法でやったらいいのかということ、スマートシティとよく言われる。小さなまちにする。人口動態に応じて街の規模を合わせていく。そういう形を取ります。その時にそういうことをやるのに、何が効果的にできるかということ、テクノロジーを使わなければいけないと今は言われている。ではテクノロジーをどういうふうに使ったらいいのかという時に、それも課題になる。都市をつくるには、そのノウハウを持っている業者や行政でないとできないということになってくる。では日本でどういうふうになっているのか。現状どうなっているかということ、東北の地震の時の災害の後の復興は、ある程度は外国の会社が全部を握っていた。電力から水道からガスから何から、まちづくりにシステムとして入ってくる。そのシステムを日本版ででき

ないかというので、日本のゼネコンなども取り組んでいます。

私の後輩が清水建設にいますのですが、すぐに能登の方に入っていって、それをやっていると聞きました。システムとしてしっかりやった方が形としてはいいのですが、全て握られていることをデメリットとして考えておかないといけない。ただただ全面的にいろいろな要求に応じでやることは、多分社会コストがすごく掛かることになるので、その辺のところは商工会議所として一言申し上げておきたいと思います。

(ぬかが委員)

テーマの中心に出ている、やりたいことができるまち。誰もが主役になれるまち。自己実現ができるまちというのは、本当にそういうまちだったらいいな、目指せることだなと思っています。何よりいいなと思っているのは、多分多くの人に受け入れられるのは、全体主義的にこうなさいよ、ではなくて、一人ひとりにとってこういうまちだよなと思えること。個に光が当たっているスローガンということで、非常にいいなと思っています。ではなぜ今できていないのかという現状分析をした上で、何を変えなければいけないのか、できていない原因がいろいろなところにあるだろうと思っています。そこが基本計画の具体化につながっていくのかなと思います。

やりたいことができない原因はハード面もあれば、先ほど発言があったように、外に出ることができない人の問題もある。本当にいろいろだと思う。そこをどう改善していくのが基本計画づくりの議論として出てくる。共に、良いところを生かすという前段の議論の中であって、本当にそうだなと思っています。先程、施設の再配置関連の議論がありました。国から公共施設の総合管理計画を作りたいということで、再配置やコンパクトシティ化を打ち出されたのは、今から15年、20年ぐらい前です。コンパクトシティ化、再配置の度に関連して中心で言われている一つに施設の複合化があります。足立区には、国から言われる前から、高齢者の施設、子どもの施設、集会所の施設といったものを一体化した施設が各所にありま

す。これはまさに足立の良さです。建物は古いですが、在り方としては先を行っていた施設だろーと思っているので、そういった足立区の良さを活かしながらやっていくというのが大事なのではないかと思っているのが1点です。

また、とりわけどこにターゲットを置くかという点で、こども基本法の流れの中で言われているように、小さな子どもだけではなくて、中高生、大学生も含めた子どもの意見表明。いろいろな社会参画というのがすごく言われており、そこが要かなと思っています。若者のまちサミットに参加していた高校生とかの発言を聞くと、すごいです。目がキラキラしていて、このまちが大好きで、このまちをどうしたら良くなるか。町会のおじさんたちと一緒に考えてみたといって、実際にアクションを起こして、一緒に作りだしている事例がたくさん全国で生まれています。やっぱりそこは大事ではないでしょうか。

つまり、一般論でやりたいことを応援していくということで「あやセンターぐるぐる」はいいと思いますが、「あやセンターぐるぐる」をお金を掛けて各地に全部作れるのかということ、おそらくはそうはしないと思います。だとしたら、誰にターゲットを当てるのかというところで、若い人たちにターゲットを当てて、やりたいことを応援する。そういう中でまちと一体となれる、そういう足立区を方向性として目指していくのがいいのではないかなと、ずっと聞きながら思っていました。

(宮本会長)

基本計画を作るにあたってターゲットをどこに置くのかという話。これも一つの整理の仕方だと思います。このあたりについても何かご意見があればお願いします。ぬかが委員としては、子どもや若者という若い世代にフォーカスをするというようなご提案ですが、これはいろいろ考え方があると思います。そこらも含めてご意見をいただければと思います。

(渡辺委員)

今のぬかが委員のご意見には賛成するところが多く、マグマだまりみたいなものが足立区にはあると思っています。例えば千住のボーイス

カウトの方々。10年前は10人ぐらいで活動をしていたのですが、今参加されている方は80人ぐらいに増えました。それはやはり活動をされている指導者の方が大変な努力をされたということもありますが、それがあること自体、千住の街で知られていなかったから、そこに参加しなかったお子さんも多かったのではないかと考えています。

それから、先ほど秋山委員がおっしゃった飲食店のことですが、ある千住のお店は、10坪もない小さいお店なのですが、そこでは若い方々の交流があって、そのお店だけで35組の方が結婚されている。その店を知っているか知らないか、そこに入ってそういうコミュニティに接したか否かだけで、そうした楽しい場に参加できたかできなかったかということになっている。最近は千住の宿場町通り商店街にもあるのですが、街灯の柱にQRコードが貼ってあって、お勧めの店が見れるようになっていきます。それさえも知っている人とそうでない人で、そういうことに参加できる・できないということがあるのだと思いました。

つまり、この基本計画において、やりたいことがやれるウェルビーイングを高めていく。また、それが活力につながっていくような基本計画を作っていくということの中で、それを埋め込むとすれば、「やりたいこと」という一つのキーワードで、皆さんがそこにアクセスをすると、自分のやりたいことが分かる。そこにアクセスできて、足立区に住んでいることの価値を知ることができる。またはやりたいことがあるのだけれども、そのコミュニティがなければ、自分がやりたいことって何だろうというのをそこに意見を投じてもらって、そうした参加の場を作っていくことに行政が携わる。こんなことも基本計画に入れたらいいかなと思いました。

（野沢委員）

私は、片野委員のご意見に賛成です。資料4を見ると、足立区が今政策転換をしようとしているのかなと感じています。足立区は基本的にはトップダウン。上からみんなを助けてあげる。誰一人取り残さないという政策の下でずっとやってきて、それ自体すごくいいことだと思

うし、継続すべきことだと思います。ただ、一方で生活の楽しさ、そして面白さにスポットを当てた時には、やはり片野委員がおっしゃった通り、自己実現、自分のやりたいことができる。そういったことが大切だと思います。今後はNPO、学生サークル、そういった何かやりたいことがある人に対してサポートをする。そういった政策が必要なのではないかと思います。

私も会社を作って、結構大変だったのですが、登記が終わって、登記証明書とか見ると、ああ、良かったなと思う。満足感がある。トップダウンは必要なのですが、ボトムアップも。やりたいことがある人に対するサポートをセレクトして挙げるべきだと思います。

（宮本会長）

足立区が政策転換をしているように見えるというのは、ボトムアップに転換しているということですか。

（野沢委員）

トップダウンで誰一人取り残さないというのは必要だと思うのですが、それと同時に自分がやりたいことがある人の満足度を高めるためには、ボトムアップのサポートも政策として必要だと思います。

（宮本会長）

そのあたりで分科会にて、小柳委員がプログラマー、IT技術者の集まりのお話をしましたが、それを紹介していただけますか。

（小柳委員）

私は情報処理技術者として働いているのですが、東京に限らず、日本国内にはいくつも情報処理技術者のコミュニティが存在しています。特に東京だと、西側に多い印象を持ちます。私が所属しているのは、浅草のコミュニティなのですが、浅草のコミュニティだけでは少々寂しいので、足立区にもコミュニティが欲しいねという話を、足立区に住んでいるエンジニアを見つけてはしているので、今年あたり立ち上げたかなと思っていますところ です。

私も今までのことを振り返って、今でこそやりたいことを割とやれているなと思います。それを仕事にもできているし、充実している現在

なのですが、そうでもない時期もありました。それはどういう時期かという、やりたいことが何もないという時期。結局、やりたいことがある人を支援していくというのも重要なのですが、結構多くの方が実はやりたいことってピンと来ないなと思っている可能性が高いと思っています。そのような時にどうやったら、やりたいことがない人に対して、やりたいことを見つけてもらうかとか、やり始めるのか。つまり、やりたいことって実はやり始めないとやりたくないっていう、卵と鶏みたいなところがあります。あらゆる人に何かをやり始めるきっかけみたいなものを注入してあげるイベントというか、フックというか、そういったものを支援してあげるというのは、かなり重要なかなと思います。思いもよらなかったものが、自分がやってみたら結構はまってしまったということもあると思いますので、区の中でいろいろな人がやっていることのカタログ化というか、そういうのも必要です。そのカタログの中から例えばランダムで、あなたにこういうものが向いているかもしれません、みたいな、招待状みたいなものを送る。触れてみたら良かったみたいなこともあるかもしれない。活性化という意味では、火種になるようなポイントというのをいくつも作ってあげないと。今、既にやりたいことがある人は自走していると思うのですが、エンジンを回し始める部分をもうちょっとやっていくといいのかなと思います。

(宮本会長)

もともとの職住分離がずっと進んでいて、家は寝るところっていう状態だったものが、次第に変わってきている。小柳委員のような情報処理系の方たちが、職場とはまた別に、住んでいるところでコミュニティを作り、それが企業と関わりながら何かができるのではないかというお話でした。そのような傾向はすごく強まっているという感じがします。それをどんどん発揮できるようになってくると、活力とかそういう部分が違ってくるのではないかという感じがします。

(山下 友美委員)

秋山委員、小柳委員が言っていたことと同じ

ことなのですが、先日地域おこし協力隊によるイベントがありまして、連日参加しました。全国の都道府県の若い方たち、20代から40代の方たちがそれぞれの町・村に対しての熱い思いをアピールする場所です。それがとても活気づいていて、悪いところや恥ずかしいところも出す。こういうところはこうだけど、やっぱりここがいい、と。そこに移住している方も多い。今、YouTuberやTikTokerなどのSNSが流行っており、足立区が本当に大好きで拡散している方たちっていっぱいいます。近くにこういうお店とかがあるんだということをSNSを通じて知る。足立でも、ときめきとかで紹介をしている。若い子たちは紙媒体を見ない時代でもあって、そういうものも活用するのはどうかなと思います。良いことも悪いことも若い子たちの目線で見てもらう。高齢者の方はICTに不慣れの方もいるし、紙媒体の方が分かりやすいというのがあるとは思いますが、若い人たちと高齢者の方たちのつながりでやる。お店の紹介を若い子たちにしてもらえば、盛り上がるかもしれない。シャッター商店街も多いですが、活気づくのではないかと思います。

地域別で作っていったって、A-Festaとかでもそういうのを広げて、うちの地域はこうなんだよというのをPRだったり、アピールだったりして、足立区がモデルケースになって、東京都でもそういうのがあってもいいのかなって思ったりします。

(宮本会長)

山下委員が言われた若い人から高齢者が教えてもらったり、また連携を取ったりというお話と、先ほど渡辺委員から、あそこへ行くと、やりたいことができるとか、これらはみんな同じようなタイプの新しい試みですね。それも既にいろいろな前例が全国で見られるのですが、それをいち早く足立区がもっと集積するというような考え方かと思います。

(渡部委員)

いろいろな活動があるが、探せないという意見を聞いて、確かにそうだなと思いました。本当に知れば知るほどいろいろな方がいらして、

とても素敵な活動がたくさんあり、でも探せないというのはすごく課題だなと私自身も感じていました。それは子育て中、子育て情報が見つけられない、みたいな。いろいろなところで情報が見つけられないというのはよく感じたところです。なので、たくさんある、それが見える化できていないというのは、一つ課題なのかなと聞きながら感じました。

地域にこんなイケオジがいるとわかれば、この人を目標にする、すごく楽しい人生になりそうだと自分の目標が見えてきたりする。それこそ、こんなすごい人がいるんだ、では頑張らなくちゃ。私もこれやってみたい、みたいなことにつながっていくと思う。やはり見えることはすごく大事。いろいろな人たちの応援をするのももちろんとてもうれしいし、素晴らしいことだし、今後も継続してほしいと思いつつ、それをどんどん「見える化」していくところにシフトをしていくのも、すごく面白いなと思いました。障団連の中でも本当にいろいろな活動をしている方がたくさんいて、もっともっと知ってほしい。でも、どうしたらいいのだろうというのがすごくよく聞く話なので、同じようにつながるなと思いました。

（加藤委員）

町会として言わせていただきます。ここに書いてありますように、確かに町会の加入率が低いとか、何をやっているか分からないとか、いろいろあります。町会的には子ども会から老人会とか、あとは青年層・中間層ぐらいの青少年育成会。その全部のことをやっています。ところが、今の社会的な環境、価値観の変化というのがありまして、子ども会の数が激減しています。子ども会に入ってくくださる方が少なくなっています。老人会への参加者数も少なくなっています。やはり町会の行事が新しくないのではないか、新しいものを入れなければいけないのではないか、いろいろ工夫しているところです。コロナ禍3年間もありましたが、5月に5類になりまして、ほとんどの事業を再びやるようになりました。ところが3年間のブランクは大きいものがありまして、参加人数が激減しています。子ども会の行事についても、小学校単

位で団体がありますが、かつては300人、400人が参加していたのが、150人と半減しています。

やりたいことをやってくださる方は非常にいいと思います。ところが、やりたいものに飛びつかない。そういったこともあるのではないのでしょうか。無関心というか。そういった方々をいかにして取り入れていくのか。そこが大事だと思いますね。例えば、以前子育てするなら足立区と掲げたこともありましたが、それでも他のところに移転していくことが多かったようです。今もそういった傾向にあるのではないのでしょうか。子育てするには学校施設の充実も必要でしょう。家を持ちたいとなっても、地価が安いから隣の八潮に行く、草加に行く。足立区から流れているのは、草加・八潮・三郷、その辺が多くなっていますから、そういったこともあるのではないのでしょうか。

（岡安委員）

先ほど、やりたいこと検討プラットフォームはどうかという例を挙げたのですが、実は数年前に足立区は、この庁舎の2階にNPO団体やボランティア団体の資料を全部そこに置いて、そういう人たちにも来てもらって、交流できる場ということでプラットフォームを作りました。ところが2年ぐらいで尻すぼみになってなくなっていました。今2階にそのようなものはありません。やっぱり区の本気度とか、担当もしっかりしていなかった。ただ、先ほどの皆さんの意見を聞いていると、あれがあれば大分そういうこともカバーできたのかなとも思っています。

もう一つは、皆援隊という講座を開きました。これはNPOとかボランティアに入るきっかけを作ろうということで、何かをやりたい人を募ったら200人ぐらいの区民が老若男女で参加しました。ところが、皆援隊講座は5回ぐらいあったかと思いますが、受けた方たちがどうなったかという、40%ぐらいの方が何らかのボランティアセンターのボランティアにつながって、あとの人はそれで終わってしまいました。ボランティアセンターに行った人も、そこはボランティアの活動だけなのです。そこか

ら新しい何か、やりたいことが実はあったかもしれないけれども、1人ではなかなかできない。やっぱり既存のボランティア団体に参加することで終わってしまっている。

ただ、先ほどの意見を聞いていると、新たなやりたいことがひょっとしたらあったのかもしれない。意見を言って、それに区が合意して、新たなNPOやボランティア団体として出発できたのかもしれないなんて考えると、あの皆援隊も何となく尻すぼみになっている気がします。やはり本気度とお金とをしっかりと掛けないと、やりたいことができるまち、主役になれるまち、自己実現ができるまちというのはできないと思うので、ここはしっかりと区も本気度で示してほしいと思いますので、よろしくお願いします。

（秋山委員）

加藤委員がおっしゃっていた自治会の問題ですが、PTAもそうですが、SNSとかホームページとかが全くないものは、私たち世代にとっては全くブラックボックスです。いろいろなことをなさっているということは、紙資料などを読むととてもよく分かるのですが、ホームページやSNSなどで発信されていないというのは非常にもったいないと思っています。なので、ぜひSNSやサイト・メディアなどを使って、アピールしていただきたいと思います。

また、自治体を紹介する番組が最近とても増えています。私も以前公務員だったので、いろいろなつながりから勉強会に出ていて、いろいろな自治体の先進事例をよく見たりするのですが、本当に今やるじゃん、この自治体、というのが増えています。あだち広報が大好きなのでいつも見ているのですが、こういうデザインを採用したところなどは、すごくやるじゃん、足立区って思います。無色透明の区になってほしい。やっぱり若い人が、やるじゃん、足立区、と思ってもらえるようなリスクを取ってやる区でいてほしい。チャレンジングなことをしてほしいと思っています。

例えば、小学校の改築だったら、小学生たちに設計をさせるとか、そのぐらいの大胆さがあるといいのではないかと思ったりします。時

代の転換期に来ているということを皆さん考えていただいて、ちょっとガラッと変えた基本計画を立てていきたいなと思っています。

（会長）

ここで模造紙にまとめていただいていますので、事務局からご説明をいただけますか。

（㈱地域計画連合 柳坪）

一つ目は住み続けてもらうためにはという話でいろいろご意見が出ました。一つキーワードとして出たのが、思い入れとかふるさと意識みたいなものがないと定住は難しいのではないかと。そこで挙がってきたのが、「交流」です。交流の少なさ、つながりとか人との関係性というのがないと人口は流出しやすい。交流の仕方としては、例えば若い人の目線で良いところ、悪いところをみんなで挙げ合って、それを高齢者の方へもインプットしていく方法がある。あとは単身者に関しては、行政が場を作ると言うよりは、飲み屋さんとか民の方で既にある場・機会をアピールする、SNSを通してそういったものを発進する。それによっては交流、つながりが生まれて、ふるさとというのか、ここにいたいなとか、あるいは出ていったとしてもここに帰ってきたいなと思えるというのがあるのかなというご意見がありました。

また、この新しいテーマ自体はとても良いアイデアだが、具体的にどうやってそれを進めていくのかということで、様々なご意見を頂きました。いくつかありまして、一つは場とかプラットフォームをきちんと用意するべきではないかということです。これまで、区としてもいろいろやってきているけれども、尻すぼみで終わった事業もある。これまでの土台も生かしつつやるというのはあるのかなと思います。

あとは具体化のための取組みとして、人を育てるということ。子どもを育てるとともに、起業したいという若者を支援する。対象を絞ってやっては、というご意見もありました。

あとはサポートについてです。一つはやりたいことがある方に対してサポートをする。これは特にボトムアップの考え方というのと、もう一つ必ずしも今明確にやりたいことが分からない人、あるいはないと思われている人に、どう

いうふうにそこを火種として火を灯すのか。きっかけというか、イベントというものがあったり、あるいはカタログ、事例紹介の話がありましたが、そういったものを示していくサポートの仕方もあるのではないかとということがありました。

さらに、いろいろなことを足立区はやっていますが、それが逆に情報がありすぎて分からないということがあるかもしれない、その見える化も重要という話が出ています。

町会の話もありまして、これまでやっていることを踏襲するだけでなく、SNS なりデジタル化なり、今の時代に沿ったものを取り入れることが必要ではないかという話がありました。

(宮本会長)

ありがとうございました。ある程度一つのゾーンが出てきたように思います。ターゲットをどこに置くかは、今日結論を出すようなことではありませんが、一つの案としては、子どもや若者層に焦点を当てることになります。しかし、いろいろなご発言をお聞きすると、やりたいことが分かるプラットフォーム化だとか、何かやる時にそれを実現できるいろいろなネットワークづくりだとか、そういうことを考えると、子ども・若者だけではないなという感じもします。足立区の人口構成を見れば、子ども・若者が少ない。圧倒的多数が中高年層ですので、やはり子どものことだけに絞ってしまうのはどうかという感じもします。ただし、基本計画の中で、いきなり全部をやるとするのは、これはどだい厳しいことなので、だんだんにやっていく。裾野を広げていく。そのうちには世代間をまたいだ広がりというようなそういうことが実現できればいいのではないかと感じます。

足立区に定住していただくことを目的にするということは、目的にはしたいのだけれども、しかしそれはそう簡単ではない。人口の移動動態を見ていくと、こういう見方もある。東京の地価が今上がってきている。上がってくると、足立区も含めてですが、外から足立区に入ってくる人がどんどん選別されていって、お金のあ

いという状態になるのではないかと。それから、もともとこの10年、20年ぐらいは、地方から入ってくる若い人が少なくなっている。一番今後多くなるのは、東京近郊だと言われている。従って、親が1時間ぐらいのところにいるというような、そういう人たちが入ってくるとのこと。そこら辺の動態の変化を見ると、では何をしたらいいのかということも、やはりそこで検討が必要でしょう。ただ単に若い人たちに残ってほしいとは言っていない。シングルは残ると思います。これもちゃんとデータが出てきています。結婚していない方はそのまま定住する可能性がある。住みやすければ足立区に定住する。そうなってくると、やはり将来的には高齢者問題につながっていくので、やはり高齢者問題というものは軽視できない問題だと思います。

今日いろいろな意見を出していただきましてありがとうございました。時間があればもっとここをグッと掘り下げたいのですが、それは次の分科会、2回ありますが、そこで更に揉んでいただきたいと思います。

4 事務連絡

(伊東 基本計画担当課長)

今回の分科会のご案内です。今回は第3回分科会になります。日時はひと・行財政分科会が令和6年2月13日の午前10時から、くらし・まち分科会が、同じく令和6年の2月14日。こちらは14時30分を予定しています。場所はここと同じ、8階特別会議室になります。当日の資料については、今回と同様にあらかじめ送付させていただきます。またご希望の場合はデータで送信させていただくこともできますので、事務局までお申し付けください。

それでは、本日はどうもありがとうございました。